



日本における第2子までの 出生順性別と第3子との 関連分析



2022年11月24日



白川 清美 立正大学・
一橋大学経済研究所
石田 和也 一橋大学経済研究所



謝辞

- 本報告は、令和4年度・人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業（研究代表者：深尾京司先生）による個票データの利用可能性の向上における研究成果の一部を発表するものである。
- 本稿で作成した集計表等は提供を受けた調査票情報を独自集計したものである。総務省統計局・独立行政法人統計センターにおいて、国勢調査の利用環境の提供及び、統計結果の持ち出し申請の許可をいただいた。
- 上記機関、関連部署の関係各位に御礼申し上げます。



天国と地獄（ブラックジョーク）

天国とは：
アメリカの給料、中国人のコック、
イギリスの家、そして日本人の妻。

- 無償労働時間：多負荷を敬遠

地獄とは：
中国の給料、イギリス人のコック、
日本の家、そしてアメリカ人の妻。

ジェームズ・H・カブラー 3世

- 住環境：核家族化傾向



少子化の要因は明確か！？

1. 世界共通の問題

- 日本は答えを明確に持っているのか？
- また対策は十分なのか？

2. 要因「ジェンダーギャップ」

- 雇用制度 - 働き方 - 所得
- 育児・介護などの家庭内性別分業

3. 対策

- 夫の育児休業の義務化 - 効果は！？

4. コロナ感染拡大の影響

- 合計特殊出生率の低下 1.34→1.30



これまでの研究

生活時間の可視化：

妻：起床し、食事の用意、夫：食事の用意ができるまで睡眠

家庭内のインタラクション：
夫の出勤時間に合わせて、妻が食事の用意
→ 朝は、夫の出勤時間に基づき、夫婦間の行動が決定

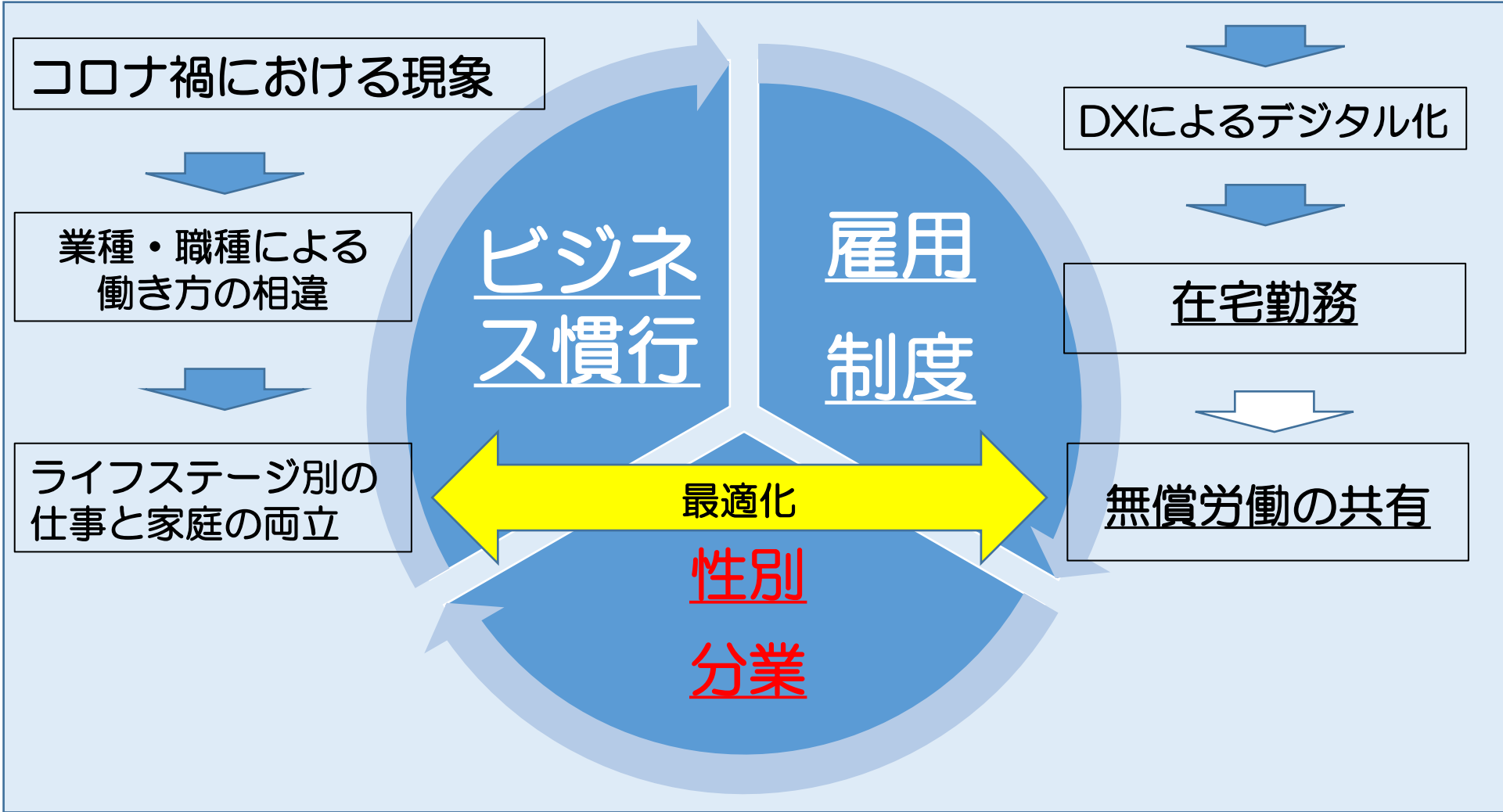


※行動シミュレーション動画のスクリーンショット



ジェンダーギャップの要因とその対策

DXによる相互依存関係への影響度を計る



江戸時代のような生活スタイル

夫婦とも働き、家財道具はレンタル



ライフスタイル別の
モデル行動と実際の
行動の比較

江戸時代への 回帰

※エコな生活スタイル

・夫婦とも働きが
一般的

1. 個人で事業を展開
2. 食事は3回（朝、昼、夕）であるが、ご飯を炊くのは朝のみ
3. リサイクルの仕組みが出来ている

, など



研究のねらい

1. 高齢化社会を支える人口構造

- 少子化問題の解消

2. ジェンダーギャップ指数の向上

- ✓ 2022年の「ジェンダーギャップ指数」世界経済フォーラム（WEF）、
- ✓ 日本は146ヶ国中116位、2021年の120位、
- 未だにG7では最下位

3. 少子化の改善状況を図る指数

- 合計特殊出生率の上昇

- 3人以上の子供がいる世帯の着目



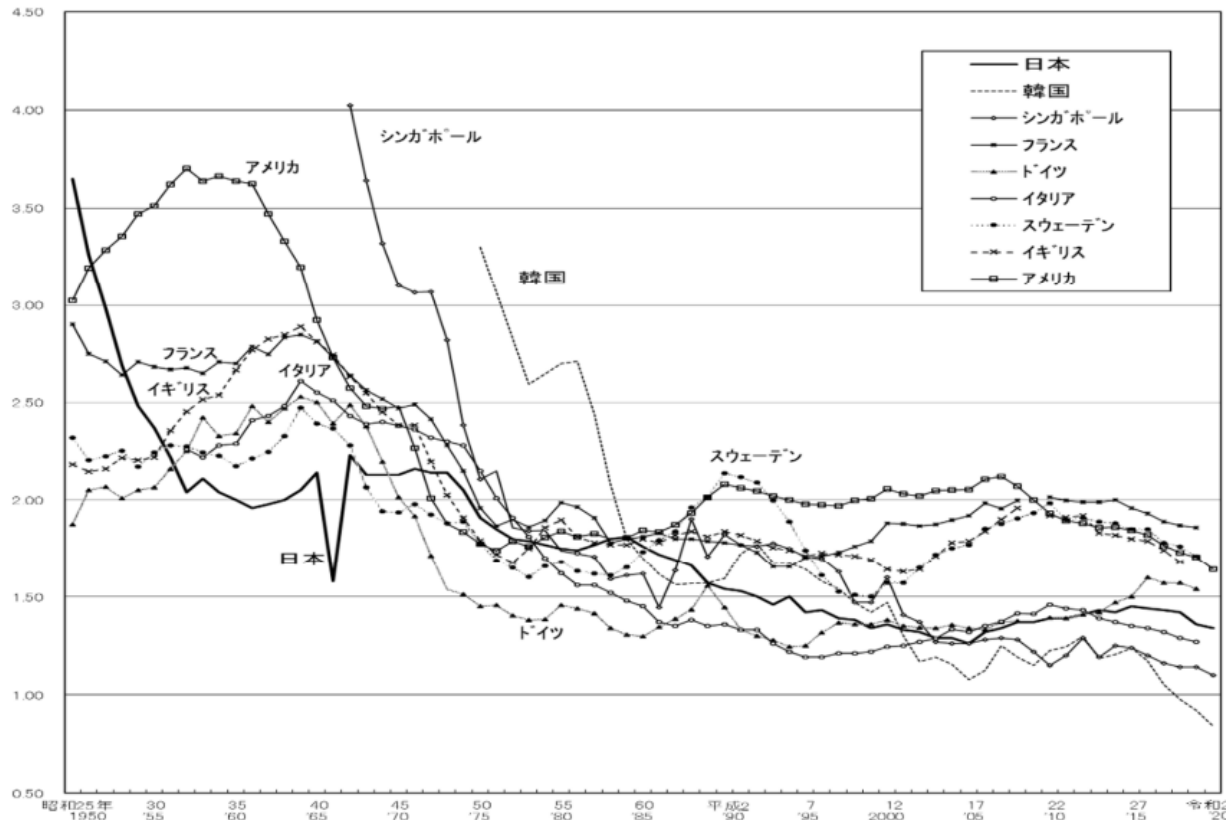
目次

- 1.はじめに
- 2.分析に使用するデータ
 - 1.分析方法 1～5
 - 2.分析結果 1～5
- 3.最後に



1.はじめに

■合計特殊出生率の国際比較



注：1) 日本の2020年は概数、韓国、アメリカの2020年及びフランスの2019年は暫定値である。
 2) 1990年以前のドイツは、旧西ドイツの数値である。
 3) 1981年以前のイギリスは、イングランド・ウェールズの数値である。
 資料：当該国からの資料による。
 U. N. Demographic Yearbook 2019, Eurostat Statistics Database による。

国及び地域名	最新年次		合計特殊出生率
日本	2020	令和 2 年	1.34
韓国	1) 2020	2	* 0.84
シンガポール	1) 2020	2	1.10
フランス	2) 2019	元	* 1.86
ドイツ	2) 2019	元	1.54
イタリア	2) 2019	元	1.27
スウェーデン	2) 2019	元	1.71
イギリス	2) 2018	平成 30	1.68
アメリカ	1) 2020	令和 2	* 1.64

注：日本の数値は概数、*印は暫定値である。

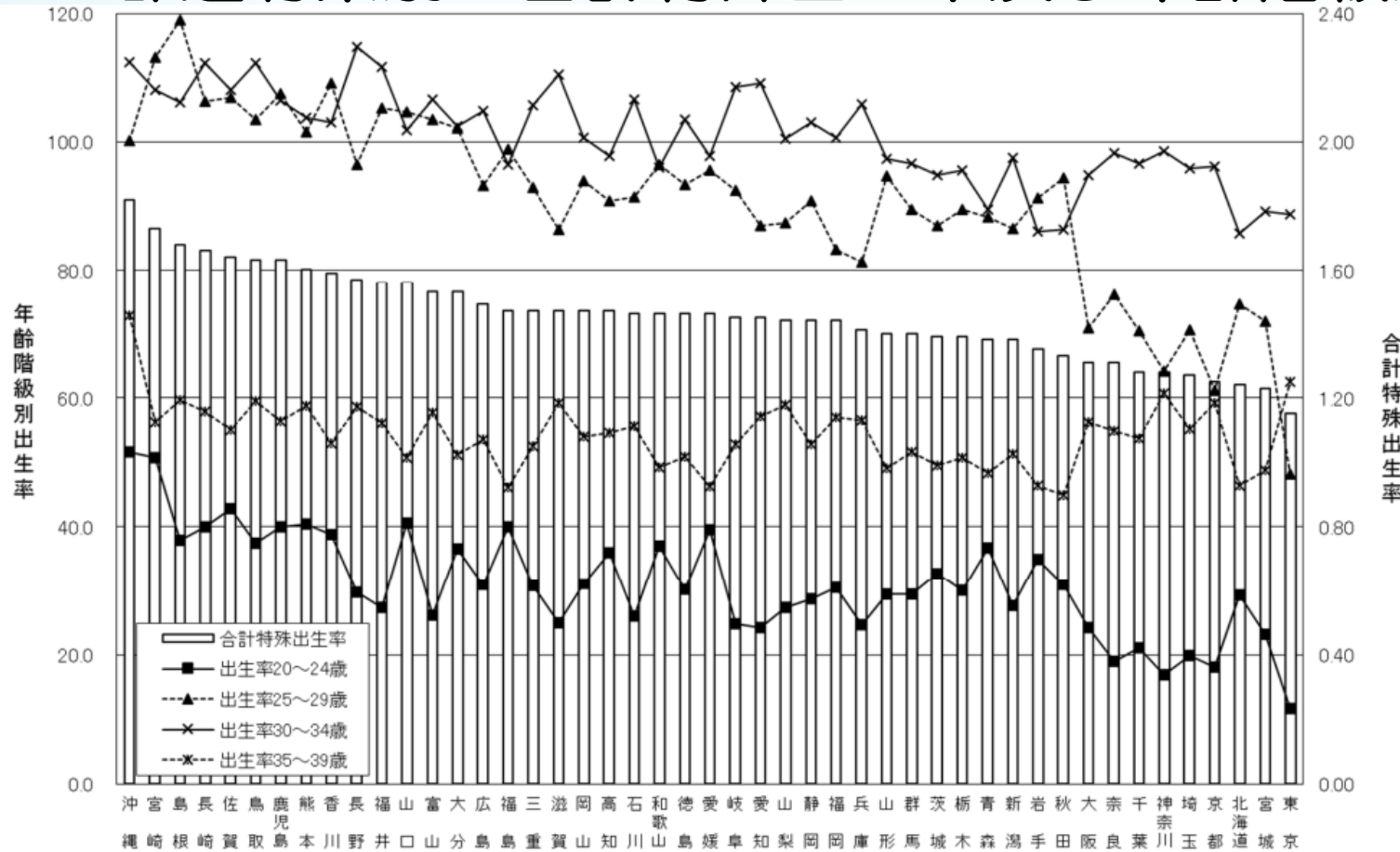
資料：1) 当該国からの資料による。

2) Eurostat Statistics Database による。



都道府県別合計特殊出生率

都道府県別の合計特殊出生率及び年齢階級別出生率の推移

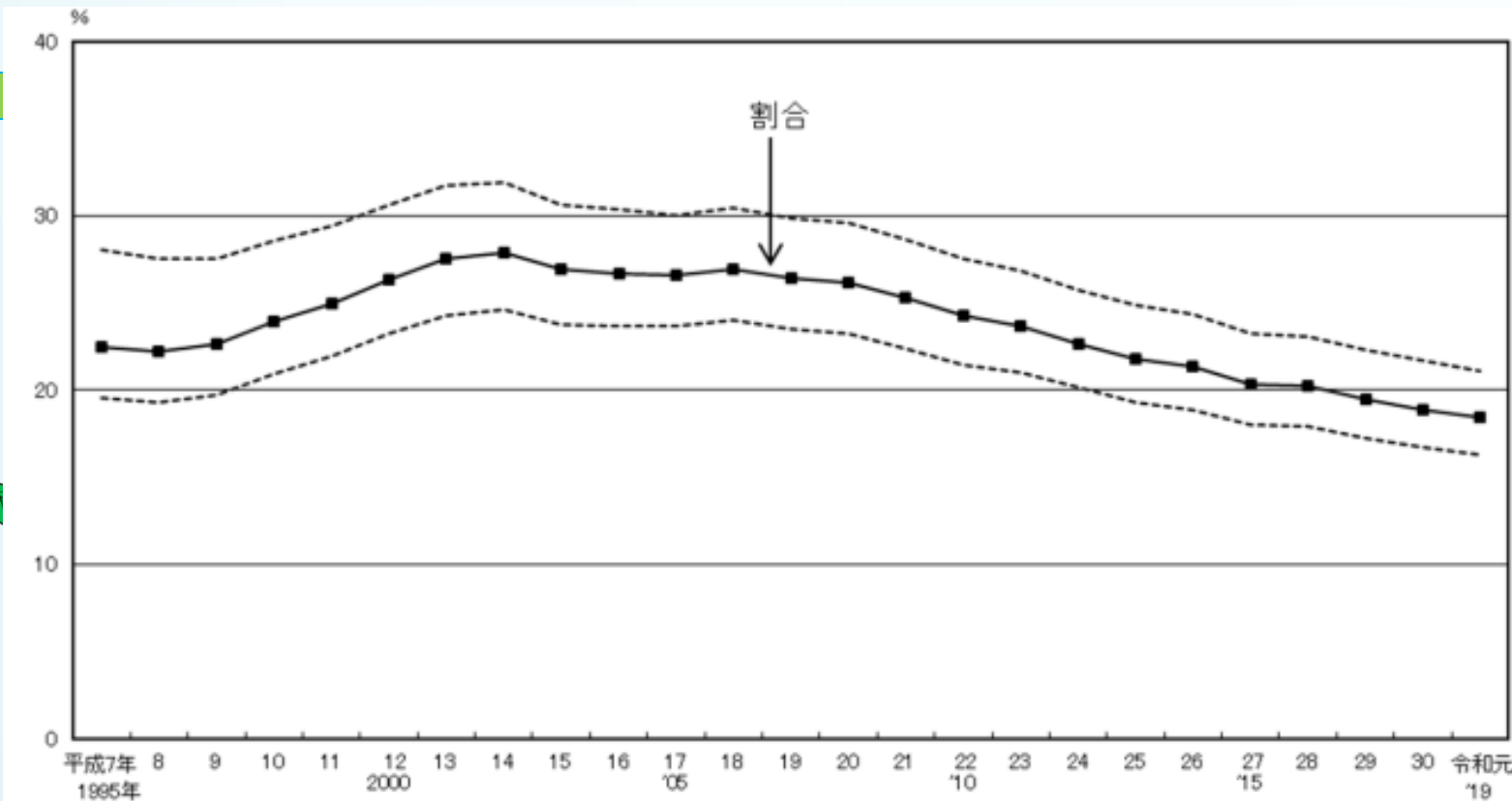


注：数値の算出には、5歳階級別の女性の日本人人口を用いた。



結婚と妊娠

「結婚期間が妊娠期間より短い出生」の「嫡出第1子出生」に占める割合
— 平成7年～令和元年 —



注：点線は結婚期間を月単位でしか把握できないことにより想定される幅である。



出生順位別男女の人数（2020年）

- 2020年の出生数は、総数840,835人、男子430,713人（51.2%）、女子410,122（48.8%）
- 2019年の総数が865,239

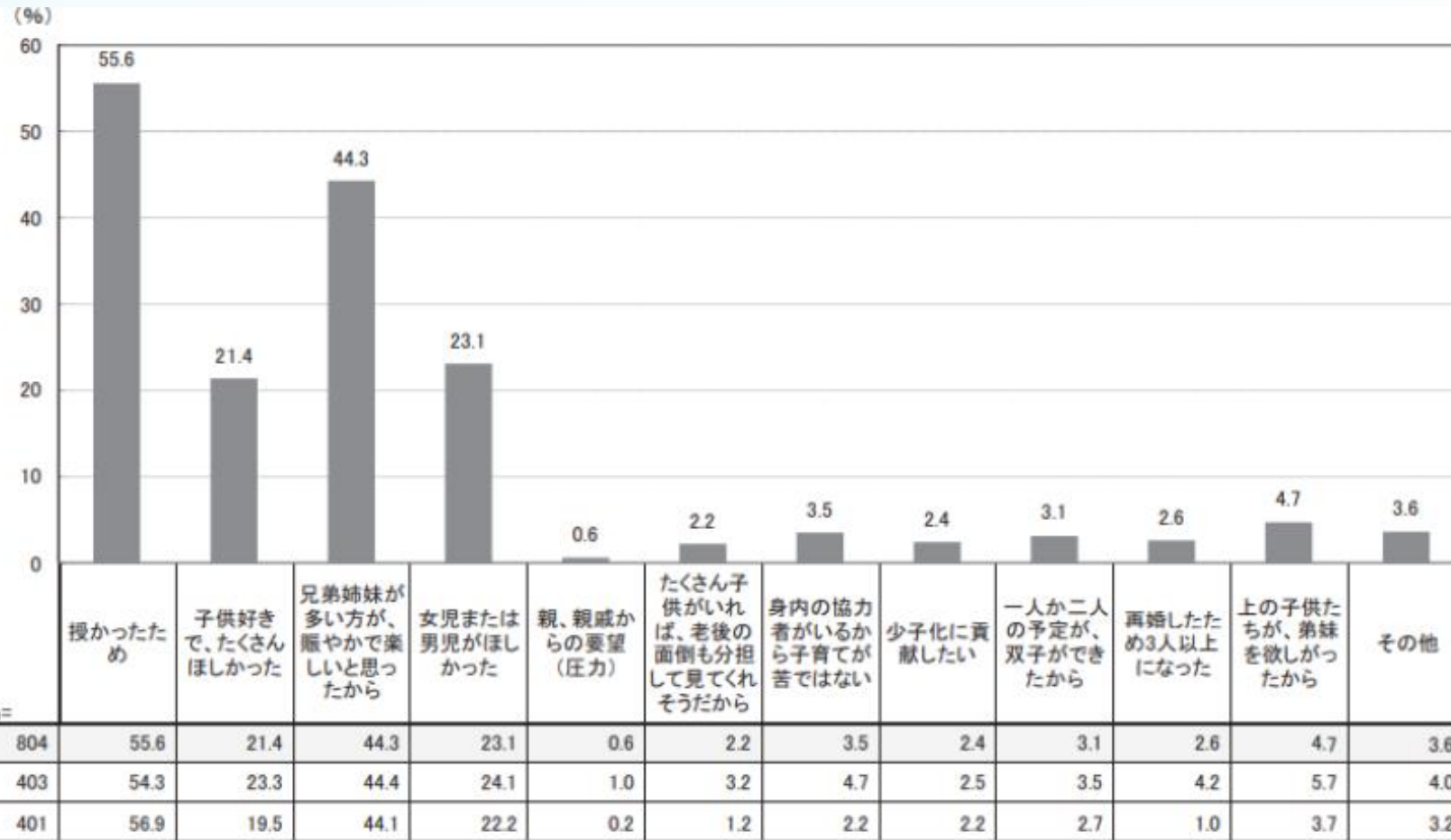
第一子			第二子		
総数	男	女	総数	男	女
392,538	201,061	191,477	304,028	155,741	148,287
第三子			第四子以上		
総数	男	女	総数	男	女
110,818	56,776	54,042	33,451	17,135	16,316

資料：厚生労働省「令和2年人口動態統計」

- 出生数は、年々減少、合計特殊出生率も低下
- 第3子以上の割合は、1965年以降、15%から17%強で推移



3人以上子供がいる世帯への意識調査

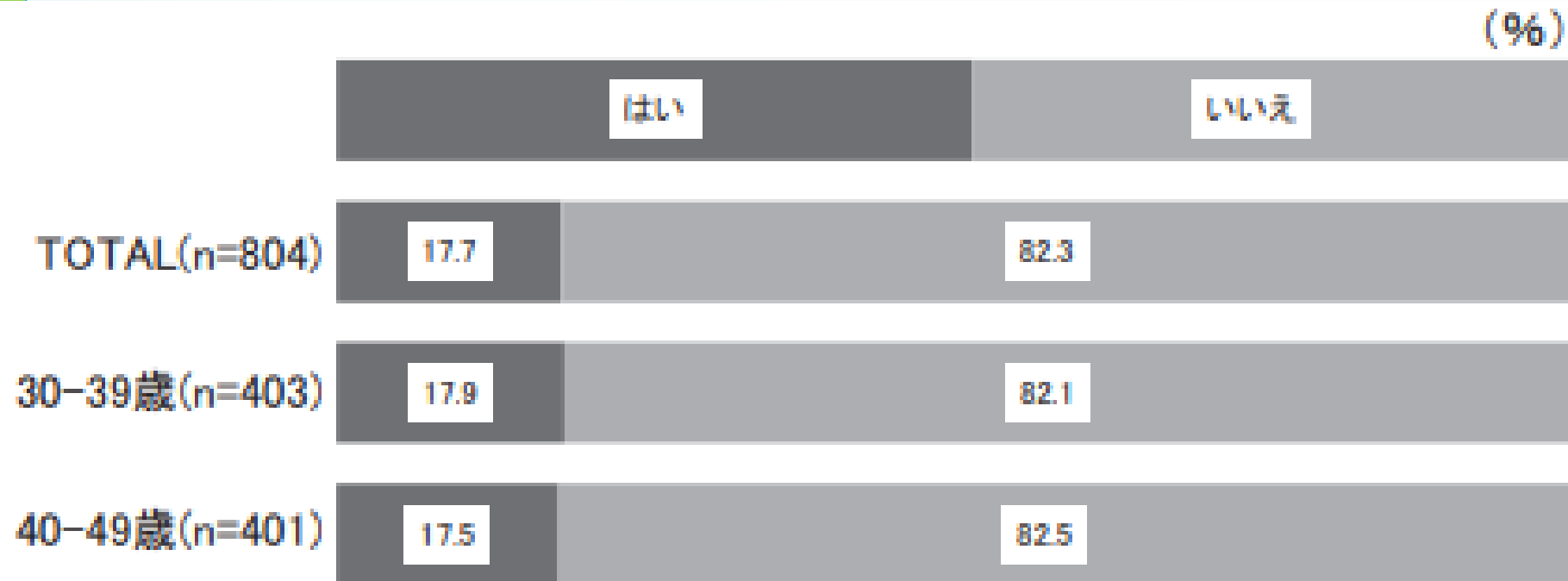


インテージ社に委託した独自調査



第3子への影響

第1子、第2子の性別が第3子の出生への影響の有無
 はい：影響あり、いいえ：影響なし



2.分析に使用するデータ

■ 分析に使用するデータ

データ	分析対象世帯数
2005年国勢調査	34,479,392世帯
2010年国勢調査	34,933,867世帯
2015年国勢調査	34,798,569世帯

- 一般世帯に限定（学生寮、社会施設などの入所者は除外）
- 子どもの人数をターゲットとするため、単身世帯は除外
- 上記世帯数は、これらを除去した後の数値

■ 本研究における子どもの定義

- 「世帯主との属性が『子』」とした

国勢調査を利用する上での
 限界と考える

■ 問題点

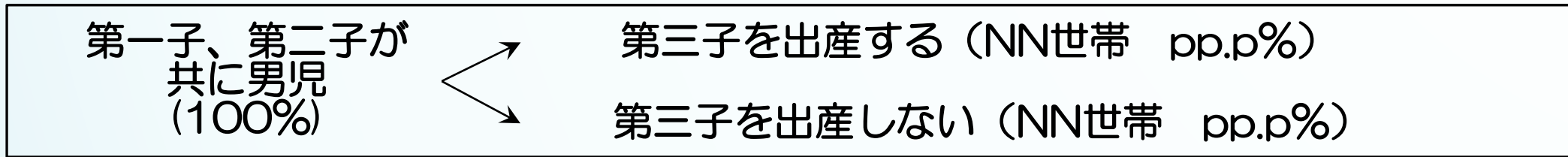
- ・ 親元を離れて一人暮らしをしている学生・社会人 ⇒ 分析対象外
- ・ 実家から通学、通勤している学生・社会人 ⇒ 「子ども」として扱う



分析方法 1

- 第一子、第二子の性別によって、第三子の出産行動に差があるかどうかを集計する。

<例>



- 分析対象世帯数

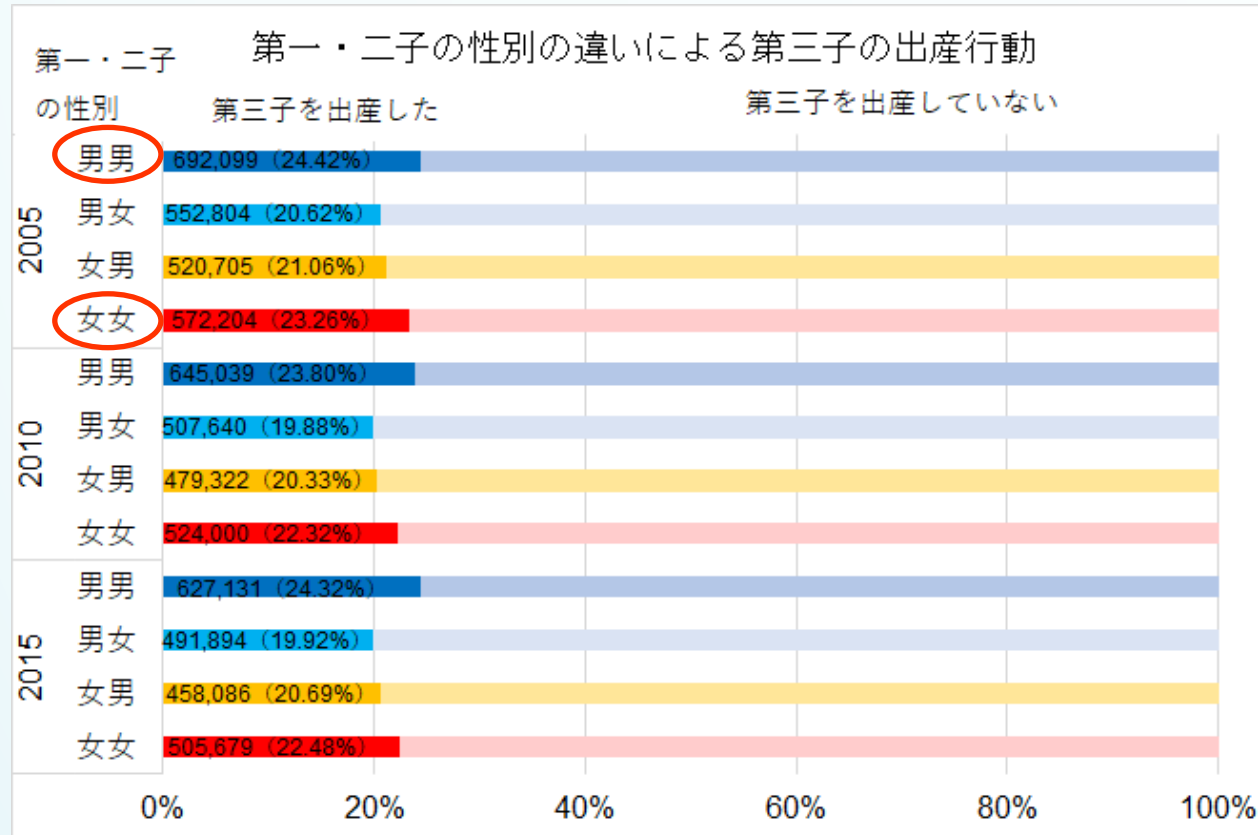
- 子供が二人以上いる世帯

データ	分析対象世帯数
2005年国勢調査	10,447,539世帯
2010年国勢調査	9,970,275世帯
2015年国勢調査	9,511,125世帯



分析結果 1

■ 第一・二子の性別の組合せによる第三子の出産行動の比較



- 第一・二子が同じ性別である場合と異なる性別である場合を比べると、前者の方が第三子を出産する割合が高い。
- 特に「男児→男児」である場合、第三子を出産する割合が最も高い。



分析方法2

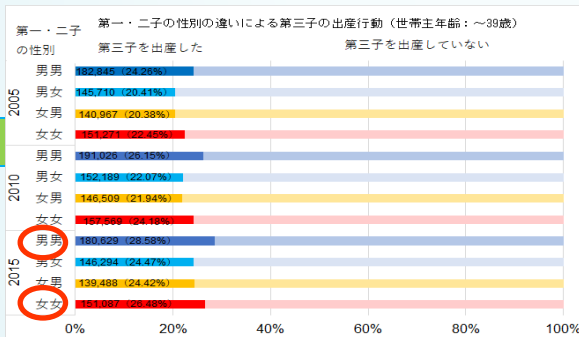
- 詳細な傾向を確認するため、世帯主年齢でグルーピング（39歳未満、40～49歳、50歳以上）し、**分析方法1と同じ方法**で集計する。
- 世帯主年齢39歳未満は、子供政策立案の上で、重要となる集団の1つと考える。
- 分析対象世帯数
 - 子供が二人以上いる世帯（分析方法1と同じ）

データ	分析対象世帯数
2005年国勢調査	10,447,539世帯
2010年国勢調査	9,970,275世帯
2015年国勢調査	9,511,125世帯

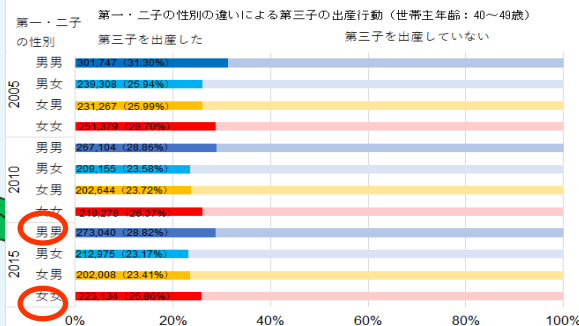


分析結果2

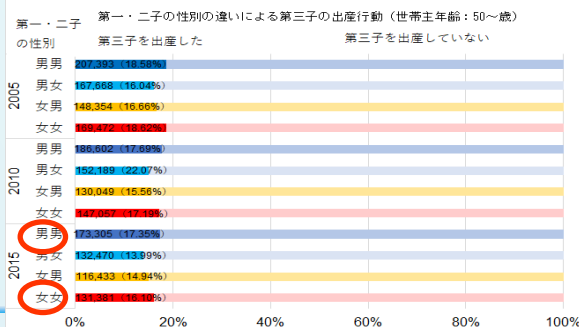
■ 第一・二子の性別の組合せによる第三子の出産行動の比較 (世帯主年齢別)



➤ 若い世帯 (世帯主年齢：～39歳) では、第一子と第二子の性別が同じ (特に男男) であった場合、第三子を出産する割合が高くなっている



➤ 世帯主年齢：40～49歳の世帯でも、上図と同様の傾向がある。



➤ 世帯主年齢：50～歳の世帯では、上図2世代のような傾向はみられない



分析方法3

- 世帯主の最終学歴によって、出産行動に差があるかどうかを集計する。
- 2005年、2015年国勢調査では最終学歴が調査されていないため、分析方法3以降では、**2010年国勢調査のみを対象**とする。
- 2010年国勢調査では、以下のカテゴリで最終学歴が調査されている。
 「小学・中学」「高校・旧中」「短大・高専」「大学・大学院」
 「学歴不詳」「在学中」
- 分析対象世帯数
 - 子どもが二人以上いる世帯のうち、以下のデータを除く
 - 世帯主の最終学歴「学歴不詳」もしくは「在学中」の世帯

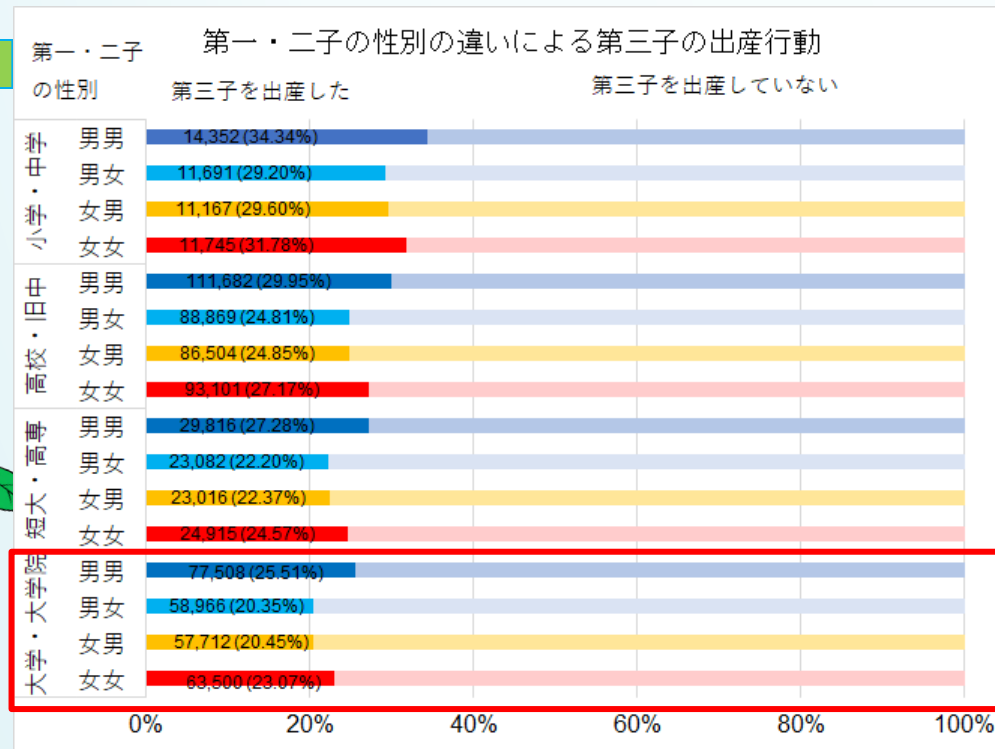
データ	分析対象世帯数
2010年国勢調査	8,925,924世帯

※分析方法1，2の世帯数（9,970,275世帯）の約89.5%



分析結果3

■ 第一・二子の性別の組合せによる第三子の出産行動の比較 (世帯主最終学歴別：世帯主年齢40~49歳)



- 結果1と同様に、第一・二子が同じ性別（特に、男児→男児）である場合、第三子を出産する割合が高い。
- 最終学歴「大学・大学院」においても性別選好が出ている。



分析方法4

- 分析方法3では世帯主の最終学歴のみを考慮した
- 分析方法4では、「世帯主と配偶者の最終学歴の組み合わせ」により出産行動に差があるかどうかを集計する。

➤ 分析対象世帯数

- 子どもが二人以上いる世帯のうち、以下のデータを除く
 - 世帯主の最終学歴「学歴不詳」もしくは「在学中」の世帯
 - 「配偶者なし」の世帯
→本研究では性別選好を対象としているため

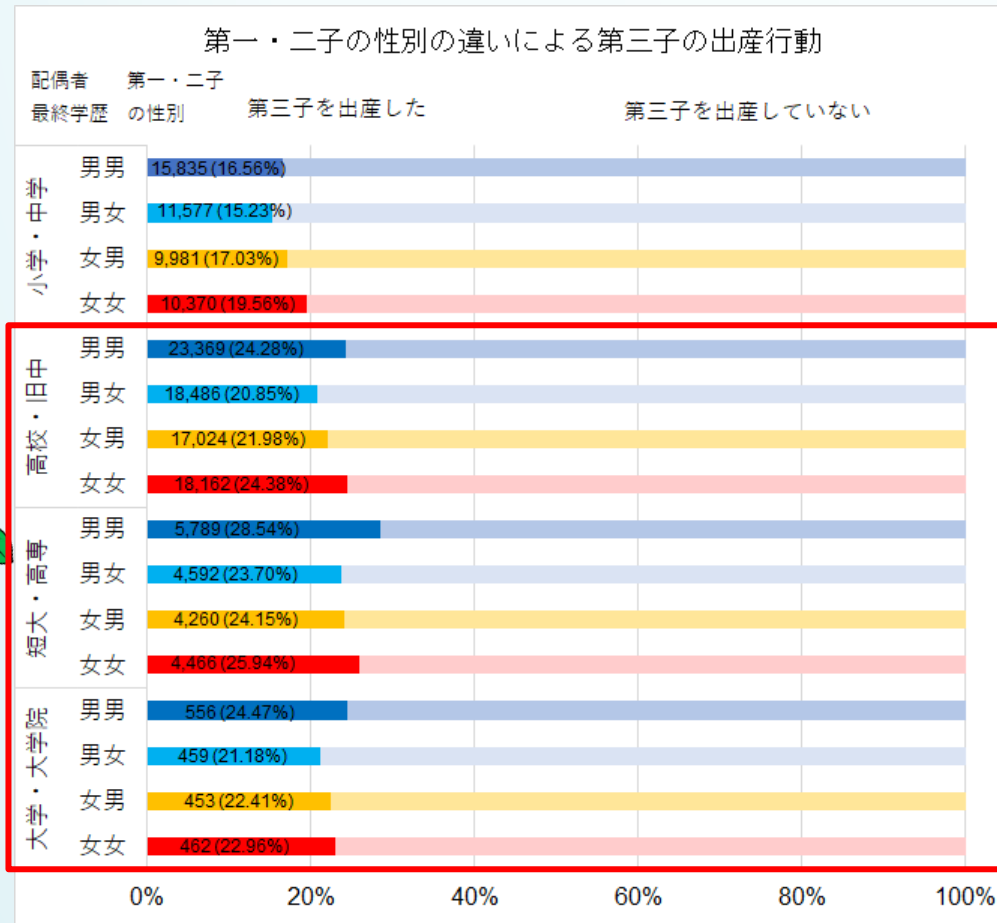
データ	分析対象世帯数
2010年国勢調査	8,877,345世帯

※分析方法1，2の世帯数（9,970,275世帯）の約89.0%



分析結果4

■ 第一・二子の性別の組合せによる第三子の出産行動の比較 (夫婦最終学歴別：世帯主最終学歴「小学・中学」)

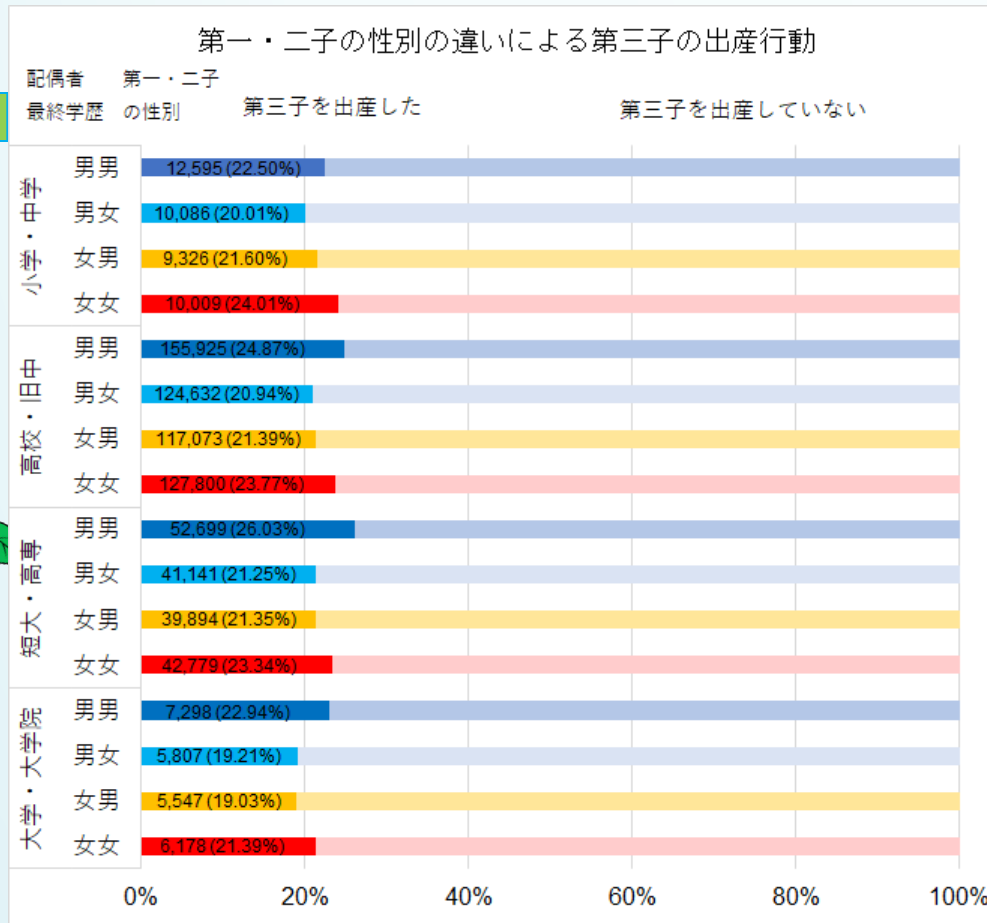


➤ 配偶者の最終学歴が「高校以上」である世帯において、第一・二子が同じ性別（特に、男児→男児）である場合、第三子を出産する割合が高い。



分析結果4

■ 第一・二子の性別の組合せによる第三子の出産行動の比較 (夫婦最終学歴別：世帯主最終学歴「高校・旧中」)

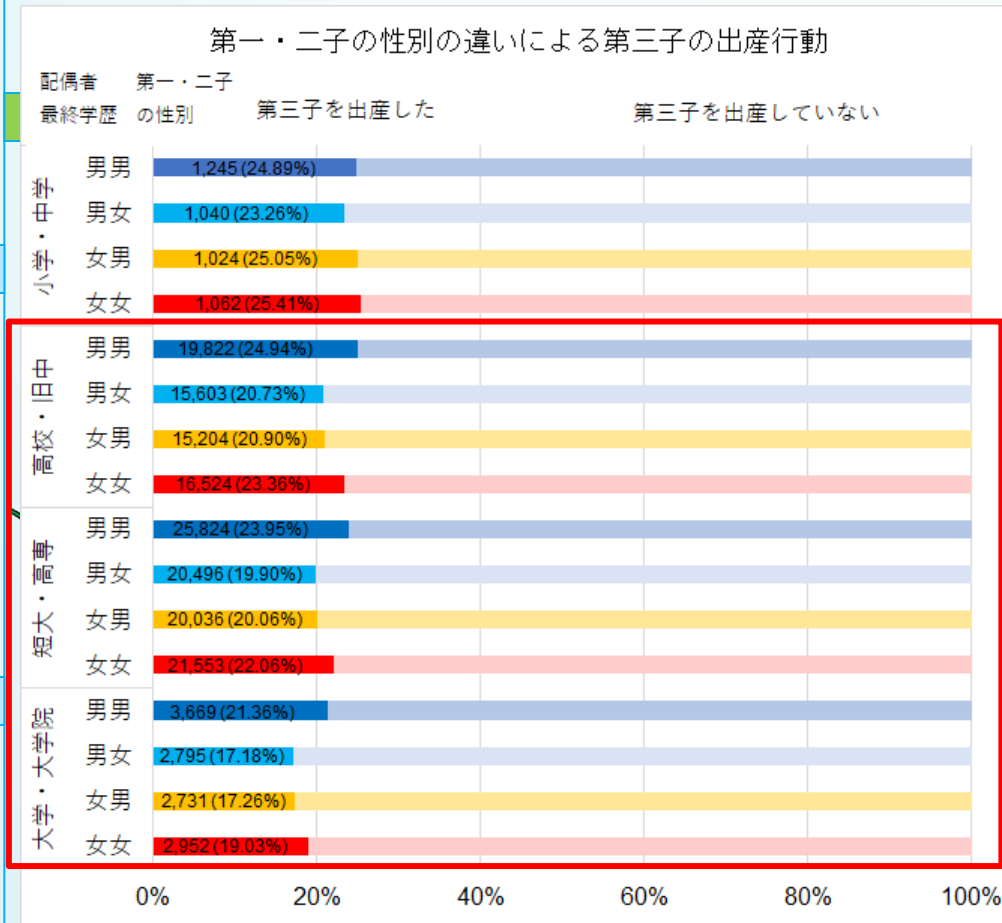


➤ 配偶者の最終学歴に関係なく、どの世帯においても、第一・二子が同じ性別である場合、第三子を出産する割合が高い。



分析結果4

■ 第一・二子の性別の組合せによる第三子の出産行動の比較 (夫婦最終学歴別：世帯主最終学歴「短大・高専」)

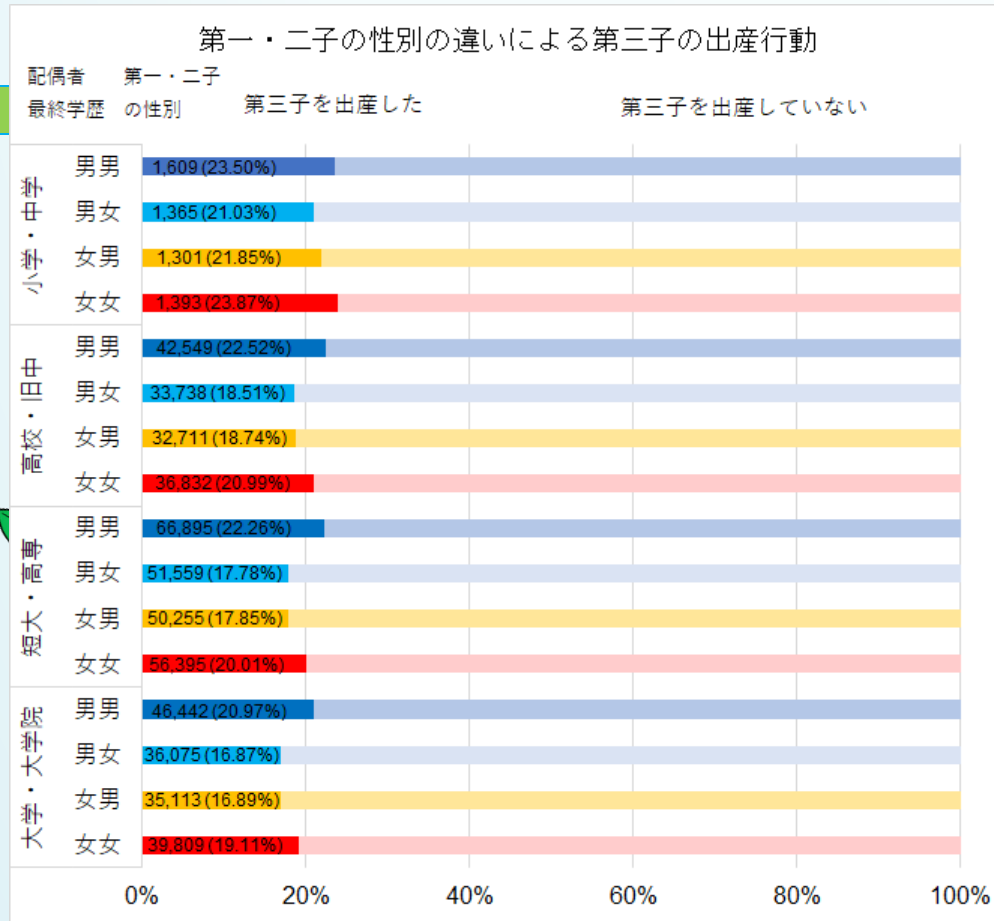


➤ 配偶者の最終学歴が「高校以上」である世帯において、第一・二子が同じ性別（特に、男児→男児）である場合、第三子を出産する割合が高い。



分析結果4

■ 第一・二子の性別の組合せによる第三子の出産行動の比較 (夫婦最終学歴別：世帯主最終学歴「大学・大学院」)

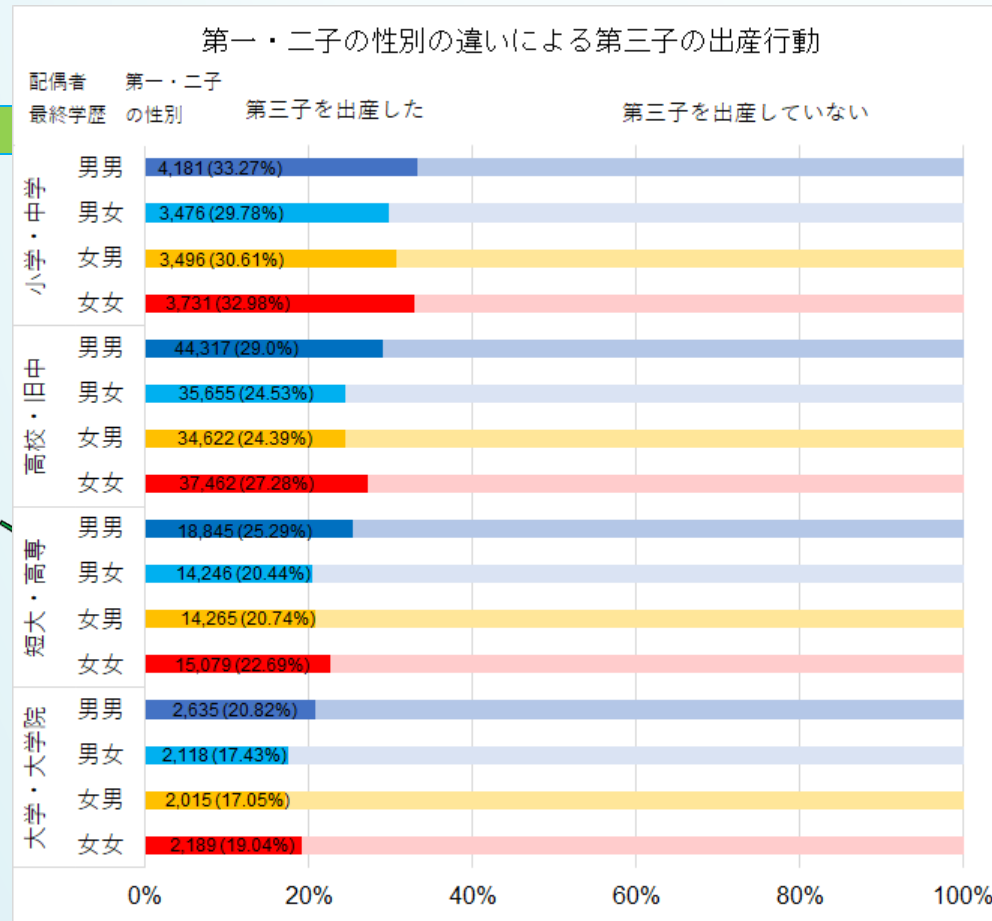


- 配偶者の最終学歴に関係なく、どの世帯においても、第一・二子が同じ性別である場合、第三子を出産する割合が高い。
- 第三子を出産した世帯の割合が他のグループと比べて低くなっている。



分析結果4

■ 第一・二子の性別の組合せによる第三子の出産行動の比較 (夫婦最終学歴別：世帯主最終学歴「高校・旧中」&世帯主年齢～39歳)

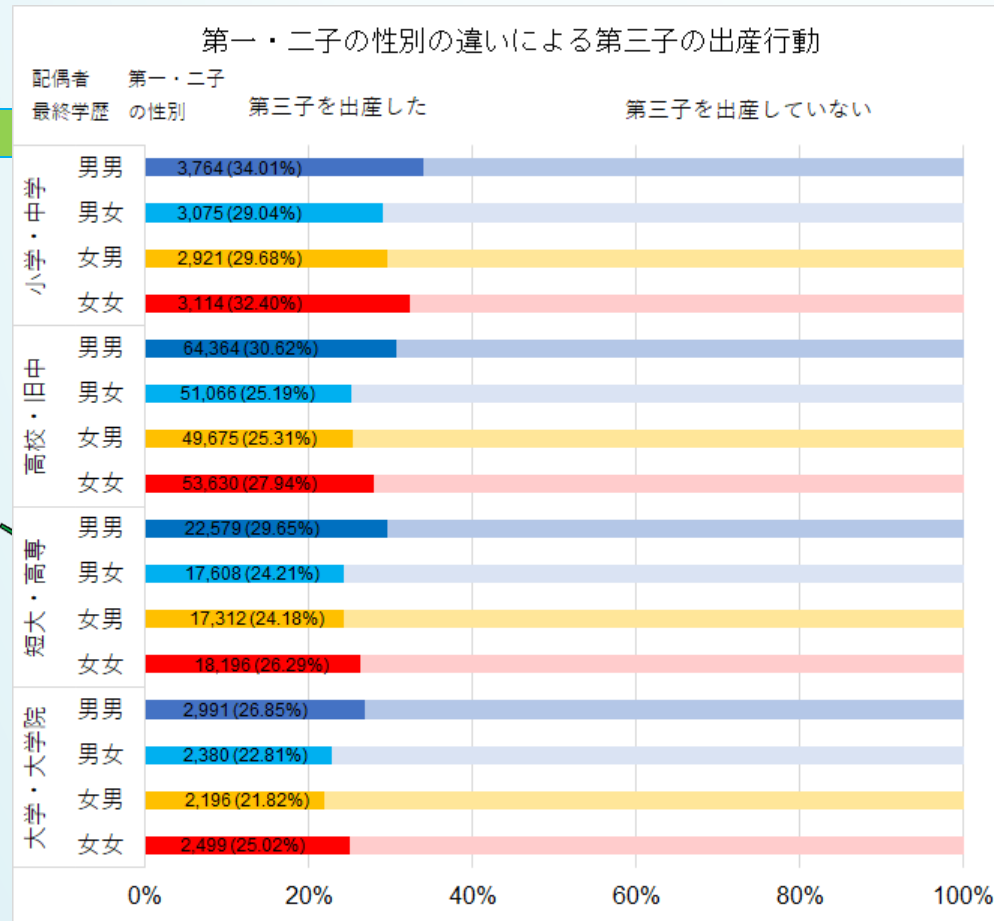


➤ 配偶者の最終学歴に関係なく、どの世帯においても、第一・二子が同じ性別である場合、第三子を出産する割合が高い。



分析結果4

■ 第一・二子の性別の組合せによる第三子の出産行動の比較 (夫婦最終学歴別：世帯主最終学歴「高校・旧中」&世帯主年齢40~49歳)

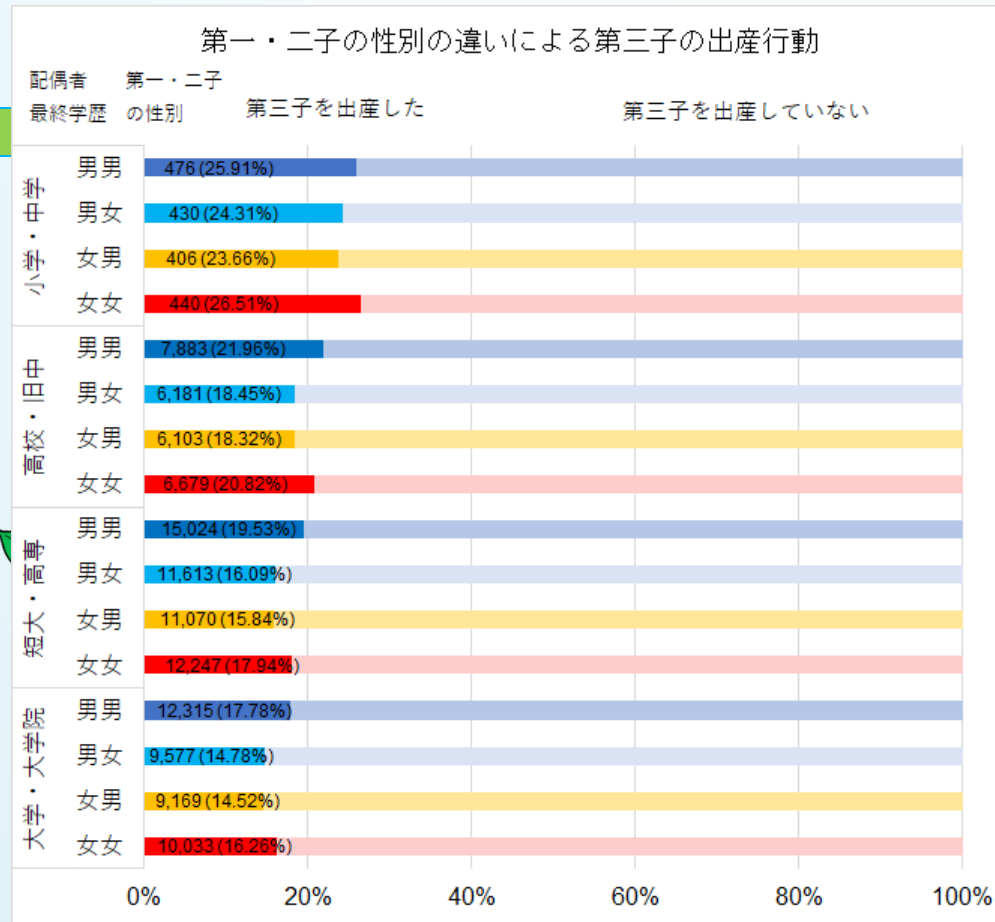


- 配偶者の最終学歴に関係なく、どの世帯においても、第一・二子が同じ性別である場合、第三子を出産する割合が高い。
- 「世帯主年齢-39歳」のグループと比較すると、こちらの方が性別選好がより濃くみられている。



分析結果4

■ 第一・二子の性別の組合せによる第三子の出産行動の比較 (夫婦最終学歴別：世帯主最終学歴「大学・大学院」&世帯主年齢～39歳)

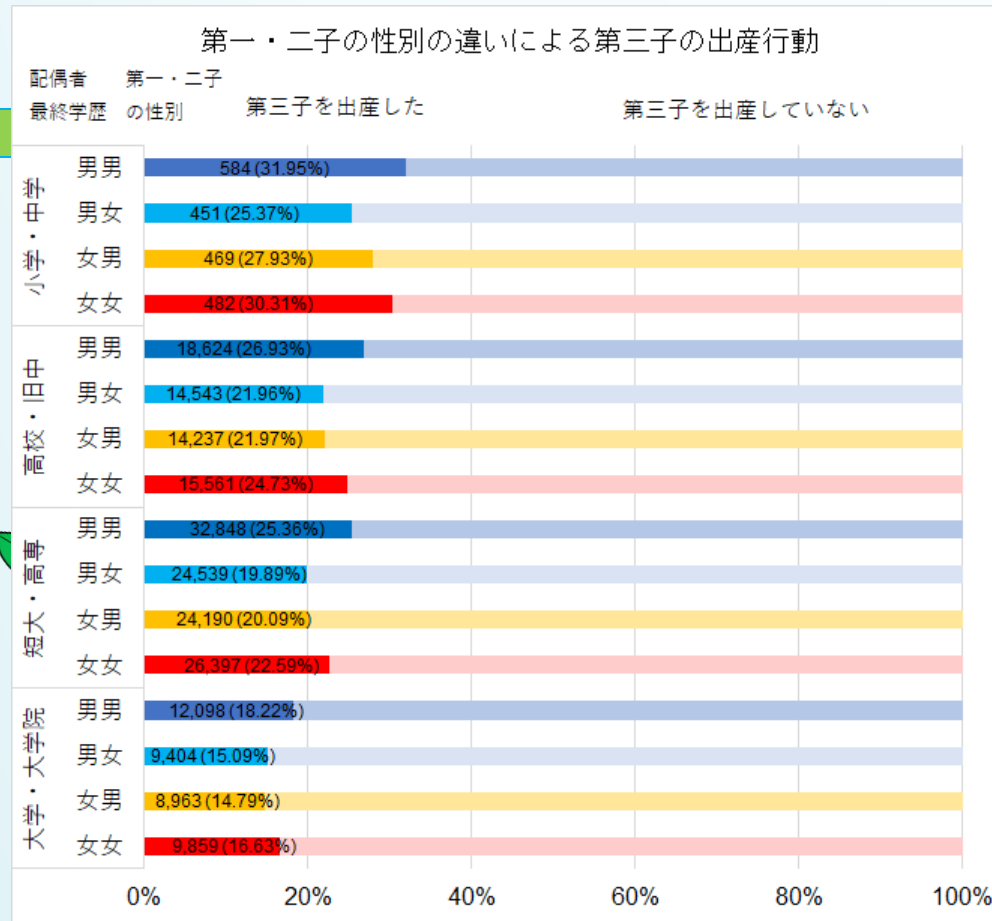


➤ 第三子に対する性別選好は、同じ年代の世帯主最終学歴「高校」のグループと比較すると、強く出ていない。



分析結果4

■ 第一・二子の性別の組合せによる第三子の出産行動の比較 (夫婦最終学歴別：世帯主最終学歴「大学・大学院」&世帯主年齢40~49歳)



- 配偶者の最終学歴に関係なく、どの世帯においても、第一・二子が同じ性別（特に男児→男児）である場合、第三子を出産する割合が高い。
- 配偶者の最終学歴が「大学・大学院」の場合は、他と比べて第三子を出産する割合が低い



分析方法5

- ▶ 世帯主が「男性」の世帯に限定し、夫婦の最終学歴の組み合わせにより、3つのグループに分ける。

		世帯主の最終学歴			
		小学・中学	高校・旧中	短大・高専	大学・大学院
配偶者の最終学歴	小学・中学	Group2	Group1	Group1	Group1
	高校・旧中	Group3	Group2	Group1	Group1
	短大・高専	Group3	Group3	Group2	Group1
	大学・大学院	Group3	Group3	Group3	Group2

Group1 ⇒ 世帯主の方が配偶者よりも最終学歴が高いグループ

Group2 ⇒ 世帯主と配偶者の最終学歴が同じグループ

Group3 ⇒ 世帯主の方が配偶者よりも最終学歴が低いグループ



分析方法5

- 世帯主が「男性」の世帯に限定し、夫婦の最終学歴の組み合わせにより、3つのグループに分ける。

		世帯主の最終学歴			
		小学・中学	高校・旧中	短大・高専	大学・大学院
配偶者の最終学歴	小学・中学	Group2	Group1	Group1	Group1
	高校・旧中	Group3	Group2	Group1	Group1
	短大・高専	Group3	Group3	Group2	Group1
	大学・大学院	Group3	Group3	Group3	Group2

- 上記3グループに分けて、出産行動に差があるかどうかを集計する。
- 分析対象世帯数
 - 子どもが二人以上いる世帯のうち、以下のデータを除く
 - 世帯主の最終学歴「学歴不詳」もしくは「在学中」の世帯
 - 「配偶者なし」の世帯
 - **世帯主が「女性」の世帯**

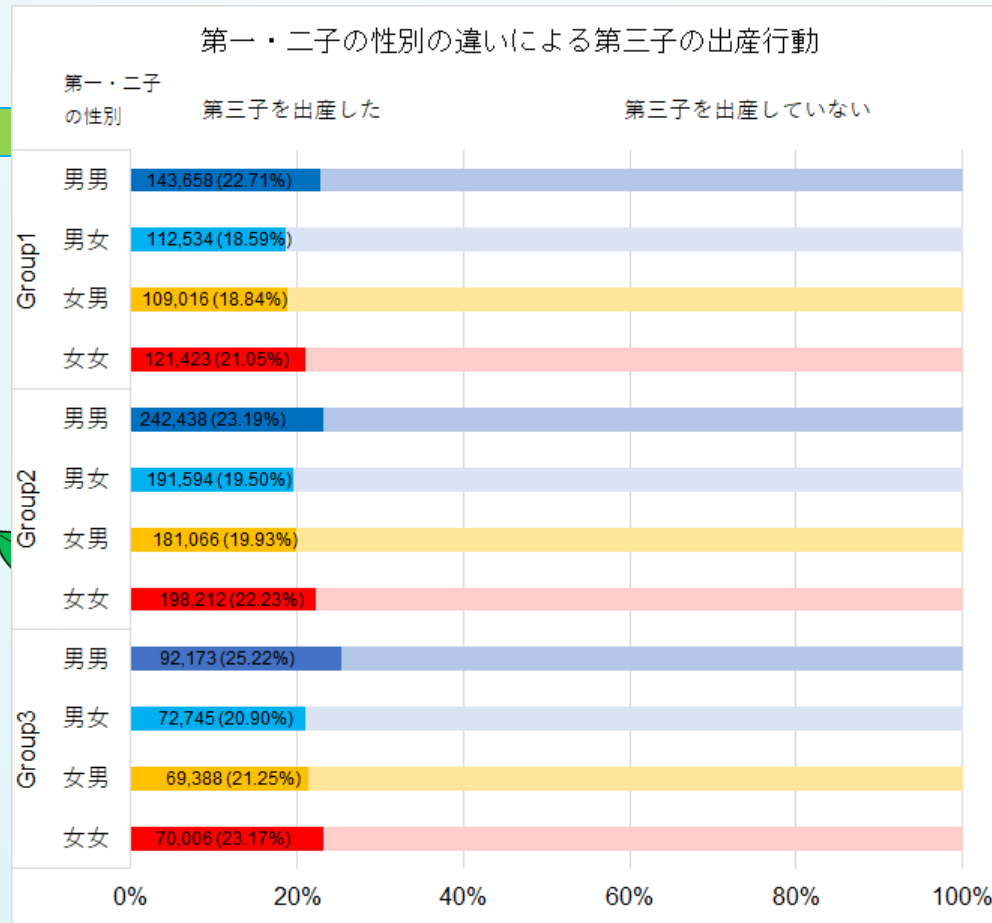
データ	分析対象世帯数
2010年国勢調査	7,563,617世帯

一部、秘匿処理などにより、持ち出せなかったデータあり。
左記世帯数は秘匿処理後の値



分析結果5

■ 第一・二子の性別の組合せによる第三子の出産行動の比較 (夫婦最終学歴、**組み合わせ3グループ別**)

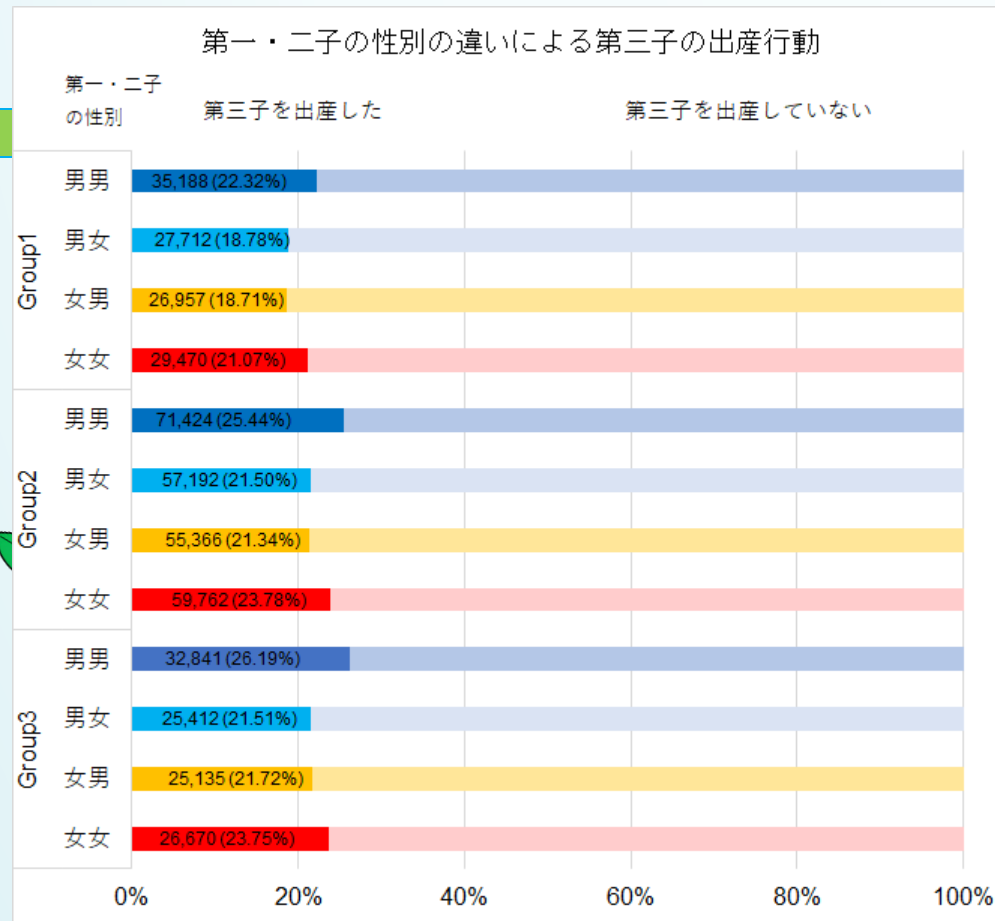


- どのGroupにおいても、第一・二子が同じ性別（特に男児→男児）である場合、第三子を出産する割合が高い。
- 特に、Group3（世帯主の方が最終学歴が低い）において、「男児→男児」の場合、第三子を出産する割合が高い。



分析結果5

■ 第一・二子の性別の組合せによる第三子の出産行動の比較 (夫婦最終学歴、組み合わせ3グループ別&世帯主年齢~39歳)

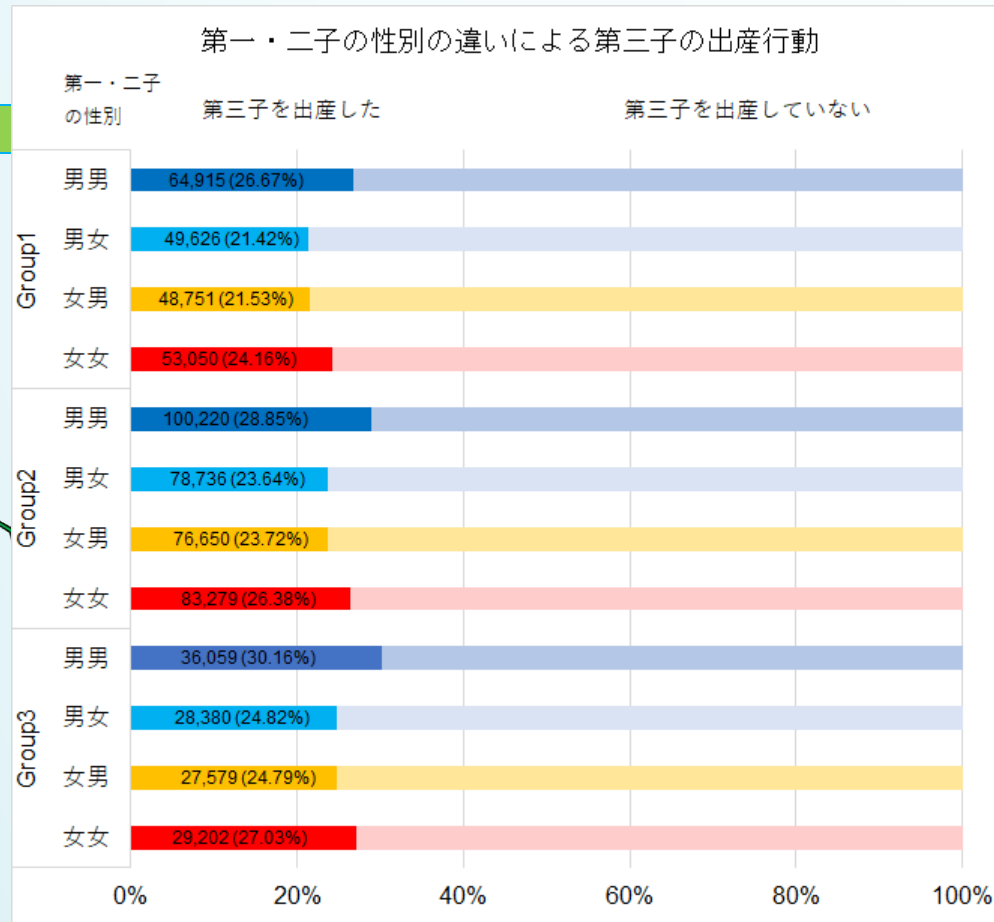


- どのGroupにおいても、第一・二子が同じ性別（特に男児→男児）である場合、第三子を出産する割合が高い。
- Group2（学歴同じ）及び Group3（世帯主の方が最終学歴が低い）において、「男児→男児」の場合、第三子を出産する割合が高い。



分析結果5

■ 第一・二子の性別の組合せによる第三子の出産行動の比較 (夫婦最終学歴、組み合わせ3グループ別&世帯主年齢40~49歳)

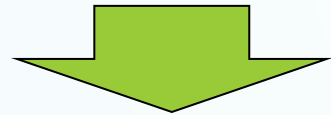


- どのGroupにおいても、第一・二子が同じ性別（特に男児→男児）である場合、第三子を出産する割合が高い。
- Group1（世帯主の方が最終学歴が高い）では、男児・女児のバランスが取れているときに第三子を出産する割合が低い
- Group2（学歴同じ）及び Group3（世帯主の方が最終学歴が低い）において、「男児→男児」の場合、第三子を出産する割合が高い。

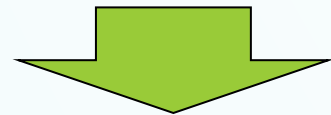


3. 最後に

- 3人以上の子供がいる世帯：
 - 一定数の性別選考がみられた



- 令和3年社会生活基本調査に基づく、
同一世帯の世帯間行動を可視化



- 今後の課題
 - 夫婦と子供関連の明確化
 - 子供の数が増えることによる無償労働
時間の変化を検証



参考情報

月刊誌『統計』2022年7月号
特集：「就業構造基本調査の意義と役割」
統計ウォッチング



特集 就業構造基本調査の意義と役割

巻頭言	太田 聡一	2
就業構造基本調査の学術研究への活用例	近藤 絢子	4
誰が中学卒になるのか： 就業構造基本調査を利用した教育機会の不平等研究	藤原 翔	12
「就業構造基本調査」にみる副業を保有する背景	川上 淳之	20
令和4年就業構造基本調査の概要総務省統計局統計調査部国勢統計課労働力人口統計室		29

統計ウォッチング

日本における子どもの数と性別選好	白川 清美	38
------------------------	-------	----





立正大学

「モラリスト×エキスパート」を育む。

ご清聴ありがとうございました。

質問等がございましたら、以下のメールアドレスに連絡願います。

shirakawa.kiyomi@rissho-univ.jp

